秋山財団 「受領者からのメッセージ」及び特別講演会のご案内

公益財団法人 秋山記念生命科学振興財団では、平成２６年度 贈呈式の式典の中で、標記のプログラムについては、一般公開致します。

今年度の公開プログラムは、秋山財団の受領者（受領プロジェクト）の中から３名の方に「受領者からのメッセージ」としてご発表頂く企画と環境ジャーナリスト小澤祥司氏を講師にお招きしての特別講演会です。

秋山財団では、生命科学や地域づくり、エネルギーの課題にご関心をお持ちの市民の皆様、教育関係者、学生の皆様などの、ご出席を心待ちにしております。

|  |
| --- |
| 〇日時：９月３日（水） １３時３０分～１５時３０分  〇会場：札幌プリンスホテル 国際館パミール館 ３階  （札幌市中央区南３条西１２丁目 ℡０１１－２４１－１１１１）  **〇 「受領者からのメッセージ」**  ・『**乳腺胞上皮細胞における乳汁分泌機構の解明**』  ・『**私が研究をする理由**』  ・『**冬の万が一を想定した寒冷期災害対策の実証と提案**』  **〇 特別講演会**  **・講師：小　澤　祥　司 様（環境ジャーナリスト・環境教育コーディネーター）**  **・演題：『　地域を潤すエネルギーの選択**  **～ 持続可能なエネルギーシステムへの転換 ～　』** |

《ご予約について》

〇一般公開（募集定員）：５０名（※先着順です。定員となり次第締め切ります）

〇ご予約方法：財団事務局宛に、メールまたはファックスにて、お申込み下さい。

（※下記ご参照下さい。お電話でのご予約はできませんので、ご注意下さい）

〇ご予約の際には、「お名前」、「ご住所」、「お電話番号」を、お知らせ下さい。

〇「受領者からのメッセージ」及び特別講演会は１３時３０分～１５時３０分までの、ワンセットのプログラムです。途中での入場は出来ません。

《当日の受付について》

・９月３日、当日は１２時３０分受付開始（受付は２階）、自由席です。

以上

|  |
| --- |
| 公益財団法人 秋山記念生命科学振興財団事務局  〒064-0952 札幌市中央区宮の森２条１１丁目６番２５号  TEL ： ０１１－６１２－３７７１  FAX ： ０１１－６１２－３３８０  E-mail ： office@akiyama-foundation.org  http://www.akiyama-foundation.org |

《ご参考：小澤祥司（おざわしょうじ）氏》

＜ 講演要旨 ＞

|  |
| --- |
| 東日本大震災とそれに引き続く東京電力福島第一原発の事故によって、日本のエネ  ルギー状況は大きな転換点を迎えたといえます。事故前には、気候変動を防ぐため  として原子力発電の比率を高める政策が進められようとしていました。  しかし福島原発事故であらためて原発の危険性と廃棄物処理の困難さが浮き彫りに  なり、新設はおろか再稼動も容易には進められない状況になっています。一方で、化  石エネルギー資源の枯渇する状況もそう遠くない将来に訪れるでしょう。  もともと原子力発電は危険であるばかりでなく、非効率な発電方式です。私たちは  ややもするとエネルギー＝電気と思いがちですが、私たちが使うエネルギーのうち電気  の比率は小さく、また実際に電気でなくともよい用途は多いのです。  自然エネルギーの活用を考えるときにも、電気へのこだわりを捨て、より効率のよい  使い方を選択することが必要です。それには、現在の大規模集中型からコミュニティ型  （小中規模分散型）へのエネルギーシステムの転換が必要になります。  その転換は、海外や域外への経済的な依存を減らし、地域に雇用を生むことにもつながり  ます。  内外ですでにそうした取り組みは進んでいますし、自然条件に恵まれた北海道はエネル  ギー自立の可能性に満ちていると思います。 |

＜経歴＞

1956年　静岡県掛川市生まれ

1980年　東京大学農学部卒業

出版社に勤務の傍ら自然保護ボランティア活動に参加

1986年 チェルノブイリ原発事故をきっかけにエネルギー問題・地球環境問題に関心を深める

1990年 以後、自然環境教育や自然エネルギーの普及をテーマに活動

2011年 東日本大震災後に福島第一原発事故による汚染に見舞われた福島県飯舘村民の支援活動、放射能汚染調査に携わる

＜著書＞

『エネルギーを選びなおす』（岩波新書）

『減電社会』（講談社）

『飯舘村　6000人が美しい村を追われた』（七つ森書館）

『コミュニティエネルギーの時代へ』（岩波書店）

『メダカが消える日　自然の再生を求めて』（岩波書店）

ほか多数。